

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191401389		
法人名	社会福祉法人 創生会		
事業所名	グッドケア・日吉(のどか)		
所在地	北海道函館市日吉町4丁目15番1号		
自己評価作成日	令和 5年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191401389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スーパーやドラッグストア・サッカー場が目の前にあり、賑わいのある環境の中に立地している施設です。敷地内には多世代交流センターがあり、定期的に催し物があるため活気が感じられます。保育園や公園・小学校も近くにある為、放課後になると子供たちが元気に遊びまわる姿も見ることができます。当施設では施設は一切しておらず、外出の希望があれば付き添いにて一緒に出掛け、コロナ禍という環境の中でできる対応を行っております。理念にもあるように「ゆったりくつろぎ、共に支え合い、笑顔で暮らせる」を心掛け、入居者様一人ひとりの思いを大切に、自宅で生活しているような雰囲気です。職員が「介護」という名の「寄り添い」でサポートし、みんなで笑って暮らせる環境を提供していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該地域は、福祉・医療・商業施設のほかに居住施設などを一体的に配置し、高齢者対応の街づくりのもと整備された中に、昨年7月に開設した事業所である。市内医療機関が当初計画に参入していたが途中で撤退、その後行政からの要請を受けた法人が、特別養護老人ホーム・サービス付き高齢者住宅、当該事業所などが運営に参画し現在に至っている。また、函館新道のインターから函館空港までの高規格道路も完成し、事業所がインターの直ぐ近くに開設したことから近隣都市からの人材確保に繋がっている。事業所は、郵便局やスーパー、ドラッグストア、公園に隣接し、買い物や散歩を通じ、地域との多世代交流が期待できる。コロナ禍では、平屋建てで広い開口部を有する窓などを通して、利用者と家族等が室内外との面会場所として活用している。また、利用者と実習の学生とがレクリエーションの場として交流している。職員を介護歴20年の管理者が暖かく、明るく接する等、介護支援サービスの確実な向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える場所に掲げ、職員は意識してケアを実践できるようにしている。	理念は施設の立ち上げに携わった初代管理者が作成している。「利用者とともにゆったり、支え合える介護」を目指し、職員が目につきやすい事務室などの場所に掲示して復唱し、支援に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地状況もよく地域とのつながりが期待できる環境にあるが、コロナ禍で思い通りの交流ができていなかった。2月下旬頃より買物など短時間の外出にお誘いしている。	地域には、郵便局、ドラッグストア、スーパー、公園などが隣接しており、利用者とともに散歩や買い物に最適な環境にある。新型コロナウイルスが沈静化後には、利用者とともに活動し、交流できる環境が整っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年の開設後、夏祭りを検討し地域貢献も期待していたが、市内のコロナ感染拡大もあり実施することができなかった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面にて、日々の生活状況や行事開催の様子などをお知らせし、ご家族様から電話で不安に思っている事や意向を頂き、その後の取り組みにも活かすことができた。	現在は、地域運営推進会議を組織する前段階で町内会長や地域包括支援センターなどの委員就任依頼と共に、相互交流をすすめ、組織立ち上げを目指している。	選任したメンバーへは、早期に趣旨説明を行うとともに委員の就任を依頼して、会議の組織化と円滑な運営に取り組むことを期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や支所の方との連絡は密に行うことができています。生活保護を受給されている方が数名いるため、特に保護課の方との協力関係は築くことができています。	行政とは、生活保護手続きや介護の更新手続きなどで連携を密にするともに、電話で運営状況等を報告するほか、運営の疑問についても気軽に連絡するなど信頼関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、職員会議などでも拘束禁止について話し合う機会を設けている。	職員会議で拘束をしない支援の説明を行っている。転倒のリスクの高い利用者へは、本人と家族へ説明と、理解を得ている。玄関は施錠せず、フロアの見守りを職員相互の声掛けと連携で、休憩時間等を調整するなど工夫して見守りを行い、拘束しない介護に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っている職員会議にて、言葉の虐待・身体的虐待がないようケアについて話し合いや勉強会を行っている。			

グッドケア・日吉(のどか)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方がおり、施設と後見人の関係性や実際のやり取りを職員が体験し日々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当者が説明を行っている。ご家族様やご本人様の不安に対して分かりやすい言葉を用いて説明し、理解・納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにて面会制限があった為、定期的に電話にて状態報告を行い、その際に意向などを聞く機会を設けている。	家族には「日吉便り」を2カ月毎に送付して、意見や要望を出し易い環境づくりに努めている。家族が必需品を届けるときや電話受信の際に利用者の状況を報告し、意見や要望等を聞き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議の他にも、提案したい内容があるときにはじっくり話を聞く機会を設け、ケアに反映させている。	全体会議などを開催し職員から意見等を聞いている。職員からの提案には、具体的に実施できる方法を一緒に検討している。利用者の褥瘡緩和措置に低反発クッション使用の提案があり、実施の結果、治癒に導くなどより良い支援に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望休を受け入れ不満なく働きやすい環境が作れるよう努めている。また、休憩室も設置しきちんと休憩時間がとれるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数が少ない職員には、入社時にオリエンテーションを行い、その際に認知症やグループホームについて学ぶ時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ敷地内にグループホーム以外の施設があるため、夏祭りなどの行事の機会に交流できる機会を作っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人で過ごしていると不安な方も、小さな子供が好きとの情報をご家族から聞き取り、子供の人形を用いて安心できる環境作りに努めることができた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時におむつや尿取りパッドの使用料を最小限にしてほしいとの要望があった方に対し、安価な排泄用品のご案内や排泄介助方法をこのようにしていきたいとの意向を伝えながら対応し、ご家族様も信頼してくださっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でご本人様やご家族様がどのように暮らしていきたいか、暮らしてほしいのかを聞き取りを行っている。また、その中から何が必要か汲み取り、それを踏まえてケアの方向性を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや片づけを職員と一緒にしたり、時には家事に対して職員が入居者様に相談したり、人生の先輩ということを意識しながら、ケアを行わせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にご家族様にこれまでの生活の様子を確認し、ご本人様の状況等に変化があればご家族様に報告し情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所に住んでいた方、習い事に一緒に通っていた方から電話にて面会を希望されたが、コロナ禍で面会制限があることをお伝えし、電話で会話して頂いた。	利用者には、近隣の馴染みの方が多く居り、友人・知人等の連絡については、家族の事前の了解と、利用者からの発信電話や利用者への電話取次に応じている。また、事業所への来訪についても、窓越での面会支援などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様との間で気が合う方を把握し、座席等の配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀にはご供花を上げさせていただいた。また退去後、ご家族様から「母に何かあった際にはまたお世話になりたい」との相談も受けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言動等を介護記録に入力し、職員間で把握に努め情報を共有しケアの方向性を検討している。	日々自宅での生活に近づけるよう支援している。夜遅い就寝にも本人の意思を尊重しながら日中の眠気観察を行い昼夜逆転の生活を避けるよう職員間で利用者の様子を申し送るなど、本人が求める生活支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様やケアマネジャーから情報を収集を行うとともに、アセスメントシートについての聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを行い、入居者様の現状や情報を共有してケアを検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が発している声に耳を傾け、問題に対して家族や主治医などから情報を収集し、現状に合った計画書が作成できるよう努めている。	利用者の日夜の行動を把握し、介護計画を作成している。歩行不安定の利用者にも、本人と家族からの「転倒のリスクが高くても歩行を希望」との意向に応え、職員が付添いの上、手引き歩行などを介護計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、そして入居者様本人の言動を記録することを行っている。その他、様子や出来事なども記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の車があることで外部の医療機関の受診にもスタッフが付き添っている。また訪問理美容も依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に薬局やスーパーがあるため、ご利用者様の物品を購入する際に活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するご利用者様は月2回の訪問診療や、特変時の相談など体制を考えて入居者様がかかりつけ医を事業所の協力医への変更をされている。	利用者と家族には、近隣の協力医による土日祝日と夜間などの対応状況を説明して、意向を確認のうえ変更を行っている。合わせて、訪問看護師による週1回の健康管理を行い、適切な医療受診に繋げている。	

グッドケア・日吉(のどか)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1ヶ月の1度の訪問診療があり、医師・看護師との情報交換は行っている。相談等は電話等で行っている。職場内の看護師にも便秘の相談を行い、スムーズな排便になるためのアドバイスなどを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際してはすぐに病院側に送る書類を準備して、情報共有に努めている。また、コロナ禍である為、面会はできないが、電話にてご家族様、病院内の相談員や看護師に状況や状態の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りに対し入居時に方針をご家族様と話し合っている。状態に変化や悪化があった際は、その都度ご家族様へ報告している。	利用者と家族へは、事業所の重度化指針や方針、看取りについての対応を書面をもって説明し、意向を把握している。状態の変化の際は都度説明を重ね意向の変化を把握し、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応についての知識はある。緊急時のマニュアルはある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行うこととなっており、消防署の指導のもと行う訓練は3月下旬に実施予定。	12月には日中、3月には夜間の避難訓練を行い、避難経路の確認や利用者の避難状況等を確認している。隣接する法人施設との連携支援体制も整えている。災害時には、毛布、飲料水・缶詰等の食品やカセットコンロのほか介護用品など3～4日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に声をかける際の呼び方や排泄時の対応など尊厳など損なわれないよう配慮している。	苗字に「さん」をつけての呼称を基本に、利用者の尊厳保持に努めている。研修会で誇りを損ねない方策を学び支援に生かしている。個人情報記載の書類は鍵のかかる箇所では保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の理解力や精神状況を把握したうえで対応している。理解力の低下している方にも選択肢を出すなどし自ら決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでの支援にならないよう、入居者様のペースに合わせて支援できるように努めている。		

グッドケア・日吉(のどか)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2か月に一度訪問美容を利用している。現在コロナの影響で今年度は不定期になっている。その他は洋服の汚れなどに気を配り身だしなみを整えて頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が準備しているが、後片付けは入居者様と一緒にしている。行事レクや誕生日会は入居者様と一緒に準備したり、盛り付けしたりしている。	メニューは管理栄養士が作成し、食事は冷凍パックで主食・副菜・汁物の具が配送され、湯煎して提供している。利用者は、食後の下膳、洗浄、食器拭きなど、できることを介護計画に記載し、職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼・嚥下の落ちている方に関しては食事状況を確認し職員と情報共有し入居者様に合った形態に変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせ歯磨き・うがいの声掛け介助を行っている。義歯を使用している方にはナイトケア時洗浄剤で義歯洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個人の排泄状況の把握に努め、誘導など入居者様に合わせたケアを行っている。	日頃の生活状況の観察や長期間の見守りから、排泄誘導を午後に変更している。この結果、リハパンから布パンツへ改善している。トイレ誘導には、近くの利用者に気付かれぬよう誘導し、衣類の上げ下げ、ふき取りなど出来ることはして頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促す事、また体操の時間を設けたりしています。便秘傾向の方は医師と相談し定期薬の変更、状況によって下剤を服用されている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1名につき週2回は入浴して頂けるようにしている。時間帯については、日中のみとなっている。入浴拒否のある方へは日時を変更したり、本人様の状況に合わせて対応する。ヒートショック予防にて脱衣場、洗面所は暖房いれている。	入浴日等に拘らず、利用者の意向を尊重しながら、週2回の入浴へ繋げている。歌好きの利用者は歌いながらの入浴で楽しんでいる。入浴介助は職員間で調整し同姓介助に繋げ、利用者が慣れ親しんだシャンプーなどを使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は個人の生活リズムに合わせて休息して頂いている。昼夜逆転しないように日中に体操など体を動かして安眠に繋がるよう支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により介助を行っている。副作用等については薬効表にて把握しており、不明な点は処方薬局の薬剤師へ確認をしている。			

グッドケア・日吉(のどか)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個人の役割を持っていただき、その継続できるよう支援している。出来る事は出来るだけ入居者様にやって頂くようにし、その人らしい生活を支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は自粛しております。近隣への公園等への散歩は行っています。	事業所内は施設せず、外出志向の利用者には、一緒に公園などを散歩している。直ぐ近くには、多彩な催し物やコーヒー店などの多世代交流センターがあり、コロナ禍の終息後は催し物などへの参加や触れ合い企画を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金トラブルにならないよう、施設にて立て替える。ご家族様、入居者様に説明し了承している。後日まとめて請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望あった際は、電話をしてもらっている。手紙・年賀状を希望された際は、家族ろやり取りが出来るよう支援行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、温度管理に注意し、入居者様にとって適切な室温を保てるように注意している。毎日定時に換気、清掃も行っている。行事や季節の食べ物を提供し季節感を感じて頂けるようにしている。また、行事レク等も行っている。	室温・加湿器等を使用しての湿度調整のほか、音声・照明などに注意して、ゆったりと寛ぎやすい環境を醸し出している。ロールカーテンは、利用者が自由に調整し、採光に気を付けている。リビングの大きなガラス面は、家族や友人等と面会し、馴染みを継続できる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかに、廊下・リビングにソファや椅子を設置しゆっくりと過ごせる環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様の希望に沿って、居室に馴染みのものを置いていただいている。また、ご自身でできる方はシーツ交換や掃除機かけ・拭き掃除を職員と行っている。	在宅で使用した馴染みのタンスやイスなどの家具、仏壇のほか、防災加工のカーテンなどを職員と利用者・家族とが相談して配置している。居室や共用スペースの清掃は、出来る範囲で職員と一緒にいき、居心地よい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のタンスには物の場所が分かりやすいように何があるのか用紙を貼っている。安全に移動ができるようにベッドの位置や物の位置に配慮している。		